

国語科

国語科における指導の重点（身に付けさせたい力） ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
【思考・判断・表現】 文章の展開に即して情報を整理し、内容を正しく捉える。	【知識・技能】 基本的な知識（漢字や文法等）を習得し、実生活において正しく用いる。

児童・生徒の学力の状況（課題）	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証（2月）
第1学年 ・背景描写や人物のちょっとした言動から、物語の場面展開や人物の心情理解に繋げていく読みが課題である。ア ・ことわざ、四文字熟語などの語彙の習得をより促す必要がある。イ	・読み流してしまうような何気ない記述に着目させて、その部分が物語に与える影響を自分の言葉でまとめ、クラスで共有していく。 ・生徒1人1人にことわざ、四文字熟語の意味や由来、例文を調べさせ、発表し合う機会を作る。	・常時 ・常時	・自分なりに思考した上で、「自分の言葉」で表現し、それを伝え合おうとする姿勢がより身に付いた。 ・少しずつ作文などでも新出の言葉を使っていけるようになった。
第2学年 ・文章の内容を正確に捉え、与えられた課題に対して条件に従って解答することに課題がある。ア ・言語に関する基本的な知識（語彙力・文法等）の習得状況に課題が残されている。イ	・まず文章を正確に読み取るための音読を毎時間の授業の中で実施することと、ワーク等を用いて基本的な読解の問題演習を繰り返す。 ・1時間で習得する内容を絞り、スモールステップで学習する。毎時の最初に前回の確認をする機会を設けていくことで知識の定着を図る。	・常時 ・常時	・設問に対して、多くの生徒が、条件を守って解答することができるようになった。 ・語彙や文法に関する理解が深まり、意欲的に取り組む生徒が増えた。
第3学年 ・文章の構成（＝展開）を捉えることや、登場人物の心情や作者の表現方法について論理的に解答することに課題が残されている。ア ・言語に関する基本的な知識（言葉の意味や使い方）の習得状況に課題が残されている。イ	・文章全体の構成を意識させた授業を展開する。解答を求める際に、その根拠を明確にさせる。 ・毎週同じパターンでの漢字小テストを実施し、基本的な知識の定着を図る。漢字の習得や文章読解と共に、言葉の意味にも着目していく。	・常時 ・常時	・本文の記述を根拠にして、論理的に解答することができる生徒が増えた。 ・定期考査での、漢字の出題難問を意欲的に学習する生徒が増えた。

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年 スライドを効果的に用いることで、他者に自分の考えを理解させる活動を意識的に設定する。</p> <p>2年 気になる語句等を調べたりする姿勢を定着させたり、班での話し合いの内容を視覚化するなどして活用する。</p> <p>3年 ロイロノートのスライドを電子フリップとして活用し、それを他者に見せながら効果的な発表をし合う。</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年 授業の最初にオリエンテーションをすることで、学びの見通しと目的を共有する。キーノートの活用により、視覚的に学習の振り返りを行う。</p> <p>2年 ロイロノートにワークシート等を格納しておき、常に生徒が使用することができるようにする。また、学習に関連する事項を配信したりする。</p> <p>3年 目標の明示やそこに至るまでの具体的なプロセス、最後のまとめ等を視覚的に伝えていく。</p>
--	---